



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax // 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
[HP] https://www.chibumura.ed.jp/

一学期を終えて

校長 熊本直宏

七十一日間の一学期も今日で終わりです。自ら立ちゆく「知・徳・体」の調和のとれた力強い知夫の子どもの育成をめざし、授業づくりとふるまい、そして知夫の強みを生かすことを考え取組んだ一学期でした。

まずは、物事に前向きに取り組む構えをつくらうと、「ふるまい一番」を大切にしました。進んでいさつする姿やそうじを時間いっぱいする姿が多く見られるようになりました。生徒・児童会では、本気目標として「言葉遣い」をテーマに活動すること、言葉遣いについての意識を高めました。このような取組む姿勢を大切にしながら、部活動の県大会アベック出場や全隠岐陸上大会での好成績につながりました。

日々、子ども達と関わる授業が充実したものであることが、最も大切なことです。よい授業をつくるために、教職員でめざす子ども達の姿を共有したり、授業観察交流を行いました。子ども達のよさや課題について捉えてきました。今後、子ども達の意欲的な学びの姿としてその成果を示していきたいと思えます。また、少人数のよさを活かして、中学部では新たに「学力パワーアップ週間」を設け、一人一人のニーズに合わせた学力向上に取り組ましました。今後、小学部にも取組みを広げ、少数を生かしたさらなる学力向上に取り組んでいきたいと思えます。

島留学では、新たに五名の子どもが加わり知夫小中学校に新たな風を吹かしています。島留生が関係づくりに社会性が高まったりと大きなメリットを感じています。切磋琢磨しながら共に伸びる環境づくりにさらに努めたいと思えます。

今後の課題として、ふるさと教育の充実、授業改善、家庭学習の習慣化、生徒・児童会の活性化、メディア啓発等があげられます。教職員全員で知恵を出し合い、保護者の皆様との連携を密に、関係機関の力を借りながら、「知夫の強み」を生かした教育活動を推進していきたいと思えます。最後に、明日から夏休みになります。休み中の交通安全や海での事故防止について学校でも指導しますが、ご家庭、地域でも子ども達の見守りを願っています。

【学校教育目標】

未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

戦争の事実を知る

～沖繩修学旅行～

六月十九日から二十三日の四泊五日で沖繩に行きました。出発前日には、関西地区で、大きな地震があり、修学旅行も危ぶまれ、また、天気予報も、一週間雨という予報も出ていた中で、行われた修学旅行でした。

いくつかの不安の中始まった修学旅行は、沖繩の海やさとうきび畑の美しさ、予報に反したすばらしい天気です。子ども達の心に大きく残ったのは、この旅行で、子ども達の心に大きく残ったのは、「平和学習」だったのではないかと思います。アプチラガマ、ひめゆりの塔を見学し、沖繩戦の事実を知りました。また、語り部さんからは、多くの罪もない人々が、苦しみながら亡くなられたことを学び、胸が締め付けられるような気持ちになりました。平和の礎では、その亡くなられた人々の多さに驚きました。

子ども達の修学旅行の感想を見ると、平和のありがたさ、戦争の怖さに気づいたという感想が多くありました。普段感じない、平和のありがたさを学ぶことができた貴重な時間となりました。

【中学生部 石橋】



【生徒感想】

語り部の新里さんの感情のこもった話で、最初は驚いたけれど、新里さんの思いがすごく伝わって

てきました。私の戦争に対する考えが少し変わりました。戦争は、ただ恐ろしいものとして認識していたけれど、私と同じ歳の人が日常的に死を身近に感じながら生き抜いていたことを知って驚きました。

新里さんが、「何があってもがんばってきた。」と、言っていて強い意志を持った方だと思えました。全く関係ない沖繩の人々が戦争によって、地獄のような目に遭ったのは酷いことだと思えました。戦争をおこした人の罪はすごく重いのと思いました。「戦争は勝った国も負けた国も国民の心に傷を残す」という言葉も心に残りました。

中学部三年

私が一番思い出に残っているのは、国際交流です。英語が完璧に話せなくても、知っている単語やジェスチャーを使うと自分の伝えたいことが伝わりました。ホストファミリーの方とたくさん話したり、遊んだりできてとても楽しかったです。

また、平和学習では、沖繩での戦争の悲惨さがよくわかりました。戦争について初めて聞くことができたので、語り部さんの話も貴重な経験になりました。二度とこのような戦争が起こらないように私たちにできることを考えていきたいです。



満足と、でも後悔と…

～自転車大会～

七月六日、出雲市「湖遊館」にて行われた「交通安全子供自転車大会」に参加しました。六月に行われたバスケットボール大会後、すぐに練習を始めた子ども達。放課後の時間に、ゆとりの時間をなかなか生み出すことができない状況にも、不平不満を言わず、学科と実技の練習に取り組んだ子ども達は大変立派でした。大会へ向けては、「昨年の順位を上回る。」(昨年は、現在の中学部一年生が大会に参加)という目標を練習に取り組みました。また、知夫駐在所の経種さんに毎日来ていただき、特に実技について具体的な指導をいただきながら練習を進めました。

大会本番は、六年生の児童四名が選手として出場しました。成績は、十六チーム中十位。昨年の成績を上回ることができた子ども達はおおむね満足そうでしたが、「一桁の順位にも届かされたかった。」という感想ももらっていました。長い間、練習に関わってくれた経種さんからは、「自転車大会に臨んだことで、これまでは何気なく考えていた交通ルールについて、真剣に考え、理解できたことも多くあったと思う。これからは、理解した交通ルールを、実際の生活に活かしてほしい。」という言葉をいただきました。知夫小中学校の中では、他の児童生徒より多くの交通ルールを理解しているであろう、五・六年生です。

経種さんのお言葉の通り、交通安全については知夫小中学生のみんなを引っ張っていき存在であってほしいです。

【小学部 道川】



地域の皆さんと交通安全意識



「声援ありがとうございました」
校内マラソン大会

先日、第一回校内マラソン大会を実施しました。気温と湿度が高いという過酷な条件の中のマラソンとなりました。

それでも子ども達はくじけそうになる自分と闘い、ゴールするまで全力を出し切って走りきりました。苦しい状況でも弱音を吐かず、自分のベストを出そうとするたくましい姿勢は、本当に素晴らしい。四月当初から見ても、成長していると実感できました。



今年度はあと二回マラソン大会があります。このがんばりを維持しながら、さらに記録更新をねらう向上心をもって取り組んでほしいと思います。保護者の皆様、地域の皆様方、当日は暑い中、沿道でのご声援ありがとうございました。
〔中学部体育担当 永井〕

〔大会結果〕

小学部低学年	男子の部	一位
	女子の部	一位
小学部高学年	男子の部	一位
	女子の部	一位
中学部	男子の部	一位
	女子の部	一位

複式教育（小学部） ※本校の複式教育の実際
待つことで子どもに力をつける

先月の校報では、『知夫小中一貫校の強み』を“複式学級を有すること”捉え、まず複式学級とはどういうものなのかを「基礎知識編」としてお伝えしました。そこで、今回は、本校の複式教育の実際として「複式教育の何に重点を置いて取り組んでいるのか」についてお伝えします。

新たな環境・新たな出会いの中での生活がスタートする1学期を終えました。1年生や転入生にとっては、新たなことに慣れるのに懸命な1学期でした。

本校は隠岐で唯一の小中一貫校、隠岐で唯一の低学年の複式学級を継続している学校です。

複式学級は、1つの学級を2つの学年で構成しているため、同じ授業時間に2学年分の内容を進めることになります。なかでも国語と算数は、同じ教室で一人の担任が2学年の授業をコーディネートする“わたり”の学習形態をとっています。この“わたり”は、子ども達の主体性を引き出し、学び合いを積み重ねていくのに効果的な学習形態であり、指導方法です。

ただし、その中にはいくつもの大事なポイントがあり、そのポイントを逃すと主体性を引き出すことも学び合いを積み重ねることもできなくなってしまいます。

いくつかのポイントの中でも、最も大事にしたいのが“待つ”ことです。授業者が子ども達による授業の進展や課題解決を待つことで、子ども達も授業者の出番を待ち、自分達で何とかしようとしていきます。

1学期、どれだけ“待つ”ことができたか…。それが2学期の主体性や学び合いの伸びしろを左右すると言っても過言ではありません。少人数の子どもを前にすると、大人は手をかけやすくなってしまいます。そうすることで、子ども達で達成できるチャンスを大人が奪ってしまうことになってしまいます。大人が“待つ”ことで、子どものチャンスを広げていくのが、複式学級の醍醐味です。

〔小学部研究主任 山下〕

※写真は、6年生と5年生がその日の算数の授業のまとめをしているところです。



「その一」
寄贈いただきました

今年も西ノ島在住の升本富雄さんより、児童・生徒一人あたり千円の図書購入費の寄贈がありました。小学部には「ドリトル先生」や絵本「ちいさいおうち」などの名作本を中心に、中学部には「舞姫」などの近代文学や、百人一首に楽しく触れられる「うた恋い。」など、合計三十九冊を購入させていただきました。子どもたちも、ますます読書好きになるきっかけになってくれると思います。升本さん、ありがとうございました。



七月二日、道川隆太郎さんが知夫小中学校に来校されました。皆さんは、道川隆太郎さんを存じでしょうか。道川さんは、知夫中学校の卒業生（昭和三十九年卒）で、大江地区出身。現在は高槻市在住で、大阪湾内の水先案内人として活躍されています。道川さんからは、平成二十二年より学校へ（小中学校共に）毎年、お金の寄付をいただいています。今回の来校時は、「勉強をしながら体を鍛え、社会のニーズに応えることのできる人間になってほしい。そして、社会に貢献しながら生きがいを持ち、満足度が高めた生活をしてほしい。」というお話をしてくださいました。また、仕事で使っているボールペン（道川さんのネーム入り）も全ての子どもと教職員にくださいました。大切に使用させていただきます。
※写真は道川さんと、招福苑にいらっしゃるお母さんとのものです。

七月の子ども達
※中学部三年保育実習



※小学部歯科指導
長久先生ありがとうございました。



小中一貫校の

強みを活かす③

月 日 曜日